

滋賀短期大学研究紀要  
第44号 2019年

## ベトナムにおける遊びを通した教育について

伊澤亮介

滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科

A Study on “Learning Through Play” in Vietnam

Ryosuke IZAWA

Department of Business Communication, Shiga Junior College

抄録：ベトナムの教育界において、「学習者中心の教育」ということが謳われて久しい。それは各段階の教育の現場で効果を上げているが、幼児教育の段階ではその遅れが指摘されている。そして、「学習者中心の教育」において重視されている教育法の一つは、遊びを通した教育である。平成29年度より幼児教育に関する教育課程が改正され、遊びを通した教育の研究と実践は日本においても注目され、その現場への導入が模索されているが、それはベトナムにおいてもまだ緒に就いたばかりであると言える。ベトナムにおける研究を概観するとき、愛国心や郷土愛の涵養といった日本と共通する課題があるのと同時に、そのグローバル化、国際協調の時代という時代認識が強調され、それにふさわしいコミュニケーション能力、問題解決能力の涵養と、多民族国家ゆえの自民族と他民族の相互理解の促進を特に重視するという特徴を持っていることが分かる。

キーワード：ベトナム、保育、遊び

### 1. はじめに

近年、ベトナムの教育界では「子どもを中心とする」教育<sup>i</sup>ということがしきりに唱えられている。この考え方の根底にある問題意識は、これまでの詰め込み型の教育への反省であり、このような事情は、近年の日本の教育現場においても共通していると言えよう。そして、ドイモイ政策以降、世界に対して国が開かれ、昨今のグローバル化、情報化社会の到来も相俟って、時々刻々変化していく事態を前にして、型にはまった知識よりも、より臨機応変に対処する力を養うことを教育が求められるように

---

E-mail: [r-izawa@sumire.ac.jp](mailto:r-izawa@sumire.ac.jp)

<sup>i</sup> 「子ども中心とした」教育という用語について、ベトナム語では、「子ども」に当たる部分が、論じられる子どもの年齢、学年に応じて変わってくるため、本論の中でも、論文を引用する際の訳語においては、当該部分がかわってしまうことを断っておきたい。例えば、幼児教育について述べているときは「子ども中心の教育」となり、小学校以上では「生徒中心の」あるいは「学習者中心の」といった具合である。

なったことから来るものでもある。

また、この「子どもを中心とする」教育について、幼児教育の現場では「遊び (trò chơi) を通した」教育、保育活動がその実現のための重要な方法の一つであると考えられている<sup>ii</sup>。そのため、様々な種類の活動、教育において「遊びを通した」方法の応用が研究されているが、時間、空間的な制約、教員の経験不足などから、まだ現場で十分に活用されていないという現状<sup>iii</sup>も日本の保育現場と共通しているように見える<sup>iv</sup>。そこで、本稿では、先行研究や師範大学の教員養成コースの教科書、理論書などから「遊びを通した」保育のベトナムにおける現状と課題を整理し、日本の幼児教育における共通する部分と、ベトナム独自の要素について考えてみたい。

## 2. 研究の目的と方法

### 2.1. 研究の目的

ベトナムの教育全体を概観しつつ、特に、日本の幼児教育においても注目されている遊びを通した教育、保育に関する、ベトナムにおけるその研究と実践について、ベトナムの最新の研究を整理し紹介する。

### 2.2. 研究の方法

先行研究とベトナムの幼児教育学科で使われている教科書等に基づいてベトナムにおける教育、特に幼児教育の発展の歴史を概観した後、主に雑誌『教育』上で発表されたベトナム人研究者の遊びに関する論文に基づき、その基本的な認識と問題意識を見たあと具体的な遊びを通した保育の内容を紹介し、その特徴について考察する。

---

<sup>ii</sup> 例えば、Nguyễn Thị Hòa(2017b)には、「遊びを通して幼児に教えることは、「幼児を中心とした」アプローチの一つ」であり、改革期にあるベトナムの幼児教育にとって必要なものである、とある (24 頁)。

<sup>iii</sup> 例えば、Lương Thị Định(2017)は、遊びを通した教育の現状について、以下のような点を指摘している (133 頁)。

- ・幼稚園ではまだ学習の方が重視されている。
- ・調査対象の 40%が、遊びの取り入れ方 (遊びの利点を利用し、学習内容にあった遊びを考え、子供の学習意欲を刺激し、問題を解決する努力を促す等の方法) を知っていた。
- ・60%は保育における遊びの利用法を知らない、あるいは効果的に使えていない。

(子どもの能力と遊びの難易度が合っていない、何度も同じ遊びをして飽きられる、適切な遊びを選択すること、道具やおもちゃの準備に熱心でない)

- ・多くの教員がその意義は認識しているが、実践できていない。

<sup>iv</sup> 例えば、李(2018)には、「1989 年の (幼稚園教育要領の：著者注) 改定から約 30 年間が経った今日、幼児指導において、子どもたちが遊びを通して様々なことを学ぶ、すなわち「遊びを通した学び」が大切な教育理念として幼児教育現場で定着しつつある。にもかかわらず、「遊びを通した学び」をどのように実現させていくのか、その具体的なイメージやノウハウを持たず、苦慮する幼児教育現場の現状も同時に確認される。」(103 頁) とある。

### 3. ベトナム教育界の現状と課題－幼児教育を中心に

#### 3.1. ベトナム教育界の発展の歴史

ベトナムでは最近まで自国の教育史について関心が低く、まとまった文献がなかった（向井 2006, 38－39 頁）。特に幼児教育分野においてはそれが顕著である。この節では, Nguyễn Thị Hòa(2017a)に主に依拠しつつ, その他日越の先行研究も参照しながら幼児教育を中心に簡単にベトナムの教育史を紹介する。その際, Nguyễn Thị Hòa(2017a)に倣って時代区分を①八月革命（1945 年）以前, ②1945－1954 年, ③1955－1965 年, ④1965－1975 年と⑤それ以降という 5 期に分けて考えたい。

まず, ①八月革命（1945 年）以前の時期について, 近代以前のベトナムにおける教育については, ベトナムでもあまり研究が進んでいないというのが現状であり（嶋尾 2008）, 更に幼児教育についてはほとんど文献がないと言えるが, 嶋尾(2008)に拠って簡単にまとめると, 村落における教育は主に科挙の試験を途中の段階まで合格したが官途に就かなかった, あるいは致仕の後, 村に帰ってきた知識人によって, その先生の家を学校として行われていた。そこでは, 初歩の漢字や漢文を教えるクラス, 科挙を目指す学生のためのクラス, といったようにレベル別に分かれていたようである（58 頁）。一方で都市では, 進士クラスの知識人が学校を開き, そこから多くの科挙合格者や高官がうまれる例もあったようである（64 頁）。

そして, フランス植民地支配下の 1930 年に公立学校がつくられるが, フランス植民地時代, あるいはそれ以前の幼児を含めた子どもに対する教育は, 社会の公的な責任とは見做されず, ほぼそれぞれの家庭でなされていた（Nguyễn Thị Hòa 2017a, 34 頁）。フランス植民地政府のベトナム人に対する教育は, 一握りのフランス語を話せる現地人官吏の養成のためになされたのであり, そのため, ほとんどの人々は無知・文盲の状態に置かれた<sup>v</sup>。また, その教育はフランス語でなされ, ベトナム語は教授されなかった。つまり, ホーチミンが「われわれ青年をフランス人でもベトナム人でもない青年にしようとしている。」と言ったような状況が生まれたのである。

②八月革命以後, 1945－1954 年の時期について, ベトナム新国家の教育面における政策は, まずは国民にベトナム語の読み書きができるようにする「文盲一掃運動」という形で進められた<sup>vi</sup>。そして, その後もフランスとの戦争が続いたために, 「教育の組織がそのまま, 不可避免的に闘争組織としての性格をもった」（広木 1971）あるいは, 「教育建設の事業は, 革命を進展させ独立をまもるたたかいと固く結びついて, 取り組まれてきた。」（戸石 1970）といった状況にならざるを得なかった。一方この時期の幼児教育については, 1948 年に国家教育省（Bộ Quốc gia Giáo dục）が幼児教育室（phòng Giáo dục

<sup>v</sup> 広木(1971)には, 「95%以上の人民が文盲を強制され, 90%以上の児童が直接労働に従事せざるを得なかった」とある（ページ数）

<sup>vi</sup> 「独立の翌日の九月三日から開始された旧制度（十三年制）の学校には, 初等, 中等合わせてもわずか二四万人（就学率一〇%以下）ほどの生徒が学んでいたにすぎなかった。他の児童たちはほとんどすべて食べるために労働に直接従事せざるを得ず, 既存の学校へかようことはできなかった。だから教師たちは村や部落へ定住し, そこで文盲一掃運動を組織しながら教育の重要性を訴え, そして児童をバイオネールに組織して, 児童の労働と社会生活の組織化と教育を開始したのである。」（広木 1971）

Ấu trĩ)を設置し、7歳以下の幼児に対する教育課程をつくるが、理論的な裏付けはほとんどなく、教員たちはほぼ手探り状態で教育を行っていた。このような状況は、社会救済局(Sở Cứu tế - Xã hội)が幼児教育人員の養成教室を開いた後も改善しなかった。この時期の、幼児教育の目的は、民主的な大人に育てる、母親たちに学習、社会活動、生産活動のための時間を与える、といったものであり、主に貧しい階級の工業、農業労働者の子弟を対象としていた。その後、1949年には3-6歳が無償で行くことのできる「幼稚園」がつくられ、50年までには普通教育の統一的体系が一応は整えられ、幼児教育に関する教室も多く開かれたが、各地で組織された幼児所(trại trẻ)に象徴されるように、幼児保育の役割は、主に戦争や生産活動にその母親を動員するために子どもたちを預かる、ということであった(Nguyễn Thị Hòa 2017a, 34 - 38 頁)。

③1955-1965年の時期<sup>vii</sup>について、保育園(Nhà trẻ, 1-3歳児を預かる)は厚生省(Bộ Y tế)が、幼稚園(Mẫu giáo, 3-6歳児を預かる)は教育省が管理することとなった。②の時期からずっと続いていた課題はしっかりとした理論に裏打ちされた教育課程の充実と、教員の養成であったが、この時期に教育省と婦人協会が協力して資料を編纂し、婦人協会が組織面を、教育省が専門分野を担う形で各省の人員養成を行った(Nguyễn Thị Hòa 2017a, 38 - 39 頁)。

④1965-1975年の時期には、まず、保育園教育について、1971年、母子援助委員会(Ủy ban bảo vệ bà mẹ và trẻ em)が設立され、72年には中央に母子援助委員会所属の保育・教育中級学校が、各省にその初級学校が造られた。教員はソ連で教育を受けた。この時期には、幼児保育に関する科学的な研究が進められ、その対象は食べ物や園舎、保育課程などであった。幼稚園教育についても同様に研究が始められ、その立場と機能、役割がはっきりと定められた。それは、幼児教育は、教育過程の最初を担っており、人格形成の第一歩であること。そして楽しい活動を通じて、体育、知能、道德の各面で子どもの成長を促進し、次の普通教育段階の準備をさせるものである、というものであった(Nguyễn Thị Hòa 2017a, 39 - 41 頁)。

最後に、⑤1975年から現在までの時期には、まず、国家が幼児教育を国の経済的、文化的発展において重要なものであるという認識に立って、保育園、幼稚園を都市だけでなく農村にも広げていこうという計画を立てた。また、教員の養成、研究の分野についても、1985年にハノイ師範大学に幼児教育課がつくられ、大学院レベルの教育が始まった。80年代は、世界の研究成果を取り入れて、国内における調査結果と合わせて実行していった時期だった。しかし、90年代の終わりになってから、それまでの教育システムが時代の趨勢に合わなくなり、改革が急務となった。そこで、1998年から2002年にかけて試験的に導入してきた新しい教育課程を、全国でも導入することとなった。その新しい教

---

<sup>vii</sup> 戸石(1970)によると、1955年には、普通教育の生徒数が127万弱(うち幼児学級52万強)。1965年には、普通教育の生徒数266万弱(うち幼児学級78万強)。1968年には、普通教育の生徒数460万(うち幼児学級150万 - 幼稚園50万、予備学級100万)とある。

程は、「子どもを中心とする教育」の観点からつくられたものである（Nguyễn Thị Hòa 2017a, 41 - 44 頁）。

以上、簡単にではあるがベトナムにおける幼児教育の歴史を紹介した。その発展の歴史は、母親が戦争や生産活動に参加できるように、子どもを預かるという戦時の簡単な機能から、手探りの教育活動、人員養成活動、ソ連に倣って制度、理論面を充実させてきた時期を経て、ドイモイ政策後に世界の研究成果を吸収し、現在、また新たな時代の社会的、経済的な要求に応えるために科学的な研究と実践を重ねているところだと言える。

### 3.2. ベトナム教育界の最近の問題意識の所在－「子どもを中心とした教育」－

前節で、ベトナムの幼児教育の歴史を簡単に紹介し、現在ベトナムの教育界では時勢に合った改革が必要とされていることを見た。そのような改革が必要とされた背景には、ドイモイ政策以降の市場経済への移行によって、経済的に余裕のある層が生まれ、早期教育への関心が高まったこと（筒井 2012）、また「経済が発展し、社会が安定してきたことによってベトナム国民が教育に対して関心を高めてきたことが大きく影響してきた」（向井 2006, 38 頁）といった事情があった。また、ベトナムの教育界では、社会情勢の変化は特にグローバル化と国際協調が強く意識されており、例えば、Trần Thị Hiền (2016)には、「教育を巡る状況はより速く、よりダイナミックに変化している。特にグローバル化と国際協調は留め難い流れであり、科学技術の発展は人類に膨大な知識をもたらしたが、その負の面は若者の道徳レベルの低下を招き社会不安を引き起こしたことである。このような状況に対して、教育は子ども、特に幼児に対して文化、生きる力、道徳的価値観を提示する必要がある。そのような研究は小学校以上の学校については研究されてきたが、幼児教育についてはこれからである。」（6 頁）とあるように、幼児教育分野での遅れが指摘されている。

新しい教育課程の根底にある考え方は、何度も触れているように「子ども中心の」教育であるが、改めて最新の研究から、そのベトナムにおける認識について確認したい。Nguyễn Tuấn Vĩnh 他 (2018) は、ベトナムの幼児教育における「子どもを中心とした」教育の展開と重要性について簡潔に述べているので、少し長くなるが引用する。「学ぶものを中心とした教育は、世界ではずっと前に生まれたものであるが、ベトナムにおいてもここ数十年で理論から実践まで幅広く応用されている。そして、幼児教育の分野においては、各段階の幼児教育の課程において実現されてきた。特に、2009 年の幼児教育課程と 2017 年の修正版からは、それは全体を貫く指導原理となった。－中略－子ども中心の教育を強化するために 2017 年 1 月 25 日、教育訓練省は「2016 年から 2020 年における子どもを中心とした学校建設」に関する計画 56/KH-BGDDT 号を出した。計画は重要な目標の一つとして、「遊びや子ども自身の必要、興味、能力に合った他の方法による学習機会を全ての子どもに保証すること（第 3 章 1 頁）。」が定められている。この目標に沿って、計画では、各幼児教育施設は「子どもの養育活動を刷新し、子どもを中心とした教育の観点から子どもの成長を評価（第 3 章 2 頁）」しなければならないと

明記している。このように、子どもの中心的役割を引き出すための教育活動の形式の研究と応用は現在、各幼児保育施設の喫緊の課題となっている。」(17 頁)。また、Trần Thị Hằng (2017)には、「教育の過程において、保育教員の役割を認めつつ、子どもを「中心」の位置に据えるということが、近年のベトナム幼児教育の目標であった。「子どもを中心とした」教育は須らく、子どもに向けられた、教員の主観的な願望からではなく、子どもから出発する教育活動である。子どもの教育は、それぞれの子どもの必要、やる気、理解、独自の経験、独自の学び方に沿ってなされなければならない。」とあるように、子どもを中心とした教育とは、教員が中心となって知識や技能を提供して学ばせるのではなく、それぞれの子どもの意欲や必要に適した、子ども自身が自分で持てる能力を伸ばしていけるように手助けするという立場に立った教育であると認識されている。そして、そのような教育の実践方法として有効であると考えているのが遊びを通した教育である。次章では、その遊びを通した教育について具体的に見ていくことにする。

## 4. ベトナムにおける遊びを通した保育、教育

### 4.1. 遊びを導入することの重要性

「子どもを中心とした保育」実現における保育現場での遊びの導入について、例えば、Nguyễn Thị Hòa (2017b)では、それは、「子どもを中心とした」アプローチの一つであり、改革期にある我が国の幼児教育にとって必要なものである。」とされ (24 頁)、また、そこで一貫して説かれている効果としては、社会生活、周りの人々についてのイメージを獲得できるだけでなく、1. 学習の際に、積極性と創造性を発揮する。2. 教員と子どもと一緒に参加、共に学び、共に学習できる。そのことで、独立心を涵養し、問題解決力をつける、などが挙げられている。この「問題解決能力」をつける、という狙いは、前章でも見てきたようにグローバル化、国際化ということが強く意識されているため、特に重視されているように思われる。この問題解決能力を養うための遊びとして、ごっこ遊びについてベトナムでの取り組みを見てみる。更に、日本にはないベトナム特有の問題として、多民族共生という課題があるが、その課題への取り組みとして、童謡、民間の伝承遊びの導入について見ていきたい。

### 4.2. ごっこ遊び

Nguyễn Thị Hòa (2017b)によると、ごっこ遊びの基本的なメリットは、学習を楽しく、自然にすること、強制されているという感覚をなくすことであると述べている。例えば、子どもに絵を描かせるという活動をする際も、ただ絵を描かせるのではなく、「画家」という役をしてもらって絵をかき、展覧会に参加する、といった具合である。

例)

#### 1. 花の種類を覚えるという学習内容について



花を販売する側と、購入する側という役割を演じてみる。

## 2. 「春」という学習テーマについて

お正月の準備をする、として、舞踏家、歌手、舞台設計者などの役割を与える

また、対人関係の構築と問題解決能力ということに関連して、Nguyễn Thị Huệ (2015)では、ごっこ遊びの意義、有用性を次のように述べている。

- ・子どもの感情に容易に入り、健全な感覚や感情が養われる。
- ・適切で文化的な対人アプローチを適切な時に使えるようになる。
- ・遊びの中、あるいは生活の中でことばや動作、アイコンタクト、所作によって積極的に自分の感情、感動を表現できるようになる。
- ・「役割」を正しくこなせたとき、喜びと自信を持つことができ、それがまた遊びへの積極的な参加、文化の蓄積へと繋がる。
- ・ごっこ遊びに参加すると子どもは大人の立場に立つことになり、生起する状況を解決していくことを求められる。この解決すべき状況が子どもに積極的な態度を与え、他人と環境との関わりを持たせる助けとなる。子供は、考え、適切で多様な解決策を模索させる。それにより、子どもは交渉能力と臨機応変な対処能力を持つようになり、これは変化の速い、激しい実際の人生に対処していくのに役立つ。

以上、少ない例ではあるが、急速に変化していく実社会に対応できる人材を育成するために、自ら積極的に、そして臨機応変に問題に対処できる能力を養うという狙いをもってごっこ遊びを導入しようとしていることが分かる。

### 4.3. 童謡・民間の遊び

『幼保連携認定こども園教育・保育要領』の中には、第2章「ねらい及び内容並びに配慮事項」の第2「満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容」および、第3「満3歳以上の教育及び保育に関するねらい及び内容」の領域「環境」において、「近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。(第2環境 2内容 (6))」、「地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。」(第2環境 3内容の取扱い(3))、「幼保連携型認定こども園内外の行事において国旗に親しむ。」(第3環境 2内容 (12))、「文化や伝統に親しむさいには、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会

とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。」(第3環境 3内容の取扱い(4))といった記述がみられる。ここにも、子どもを将来的にグローバル化する社会に対応できる能力をもちながらも、自国の文化・伝統を理解し、それを重んじ、自国を愛することができるような人材に育てるという意識が読み取れる。それは、先に触れたベトナムにおける幼児教育の意義に対する意識と共通するものである。山本・今泉(2018)もこの記述について、「保育現場でも様々な人種や国の子どもが共に生活し育っている中、日本人としてのアイデンティティーの礎をしっかりと構築することが重要であることを示している」(13 頁)あるいは「愛国心を育て、社会とのつながり、国際理解への意識の向上を図り、平和な社会の基盤を作っていくという我が国の政策や教育方針が読み取れる。」(13 頁)と指摘しており、またそれを受けて「日本人、国、伝統文化といった日本人のアイデンティティーや社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるような保育者の配慮が必要となるであろう。」(14 頁)としている。

山本・今泉(2018)では、日本のわらべうたを通した自国の伝統文化の理解について論じており、更に韓国における調査を通して、韓国でも自国の伝統文化の振興に力をいれている実情が認められる、としている。ベトナムにおいても、童謡(đồng dao)や歌を伴う民間の遊びの保育現場の利用においては、同じように愛国心、郷土愛の涵養や伝統文化の理解という事が主な目的の一つとして挙げられているが、多民族国家という事情からお互いの文化の理解を促進するという目的も目指されており、更に、情感を豊かにする、初歩的な数の概念を教える等の様々な効果が期待されている。以下、ベトナムの研究から具体的な童謡や民間遊びについての考え方について紹介する。

Dương Tố Nga (2015)には、童謡等の教育的な効果について以下のように述べられている。「子守歌、童謡、子どもの遊びは、子どもに、簡単に、それでいて深く忘れ難い大人になるための教訓を与える。そのような教訓は、子どもの心に輝かしく、情感に富み、祖国郷土を愛する魂をつくる。」(28 頁)また、特に童謡については、「想像力、芸術的なインスピレーションをはばたかせ、創造力を生み、共同体の精神、愛国心、郷土愛の精神を強め、民族の心を涵養する。」(28 頁)としており、先に見たように日本や韓国などと同様に伝統文化、愛国心などが育つことを期待しているといえる。また、童謡のメリットとして「調子も歌詞の内容も年齢に合った自然の、あるいは社会の環境を反映している。歌詞は韻を持ち音調は簡単で覚えやすい。」(28 頁)としている。

例：

Nu na nu nóng	足を出して数を数えましょう
đánh trống phất cờ	太鼓を鳴らし、旗を揚げよう
mở cuộc thi đua	さあ、ゲームを始めよう
chân ai sạch sẽ...	きれいなのは誰の足？



Cái một, cái mai	一つ一つ, それぞれ
cái trai, cái hến	二枚貝とムール貝
con nhện chăng tơ	蜘蛛が糸を張る
quả mơ quả mận	すももと梅と
quả mơ, quả mận...	すももと梅と

(28 頁)

次に, Trương Thị Thùy Anh (2017)から, 例を挙げてみる。ここでは, 童謡を通して期待される効果として, 家族関係を知る, 初歩的な数の概念が分かる, 自然環境(動物, 植物)などについての知識を覚えられる, などが挙げられている。

・家族

Kì không là ông kì đà	海トカゲはオオトカゲのおじいさん
là cô đậu nành	かぼちゃは大豆の叔母さん
・数, 計算	
Con của tám cẳng hai càng	カニ, 足八本ではさみが二本
một mai, hai mắt rõ ràng con cua	甲羅一つに, 目が二つ, これはカニに間違いない
・自然(動物・植物)	
con vòi con voi	象の長い鼻
cái vòi đi trước	鼻が最初で
hai chân trước đi trước	前脚が先に行き
hai chân sau đi sau	後脚が後に続く
còn cái đuôi thì đi sau rồi	しっぽは最後
tôi xin kể nốt	これは何か言ってみよう
cái chuyện con voi	これは象です

(Trương Thị Thùy Anh. 2017, 20 頁)

最後に, 民間遊びについての具体例を挙げる。Lường Thị Định (2017)では, 多文化教育に各民族の遊びを取り入れることを提唱しており, それは, 54 の民族をもつベトナムでは特に大切なテーマである, としている。更に, 多文化教育の目的について, 若い世代に, 伝統文化のすばらしい価値を認め誇りを持ち, そこから各民族の文化の特色を尊重して自信をもって現代社会に参加することができるようにすることであり, 教員の役割は, 自民族の文化に誇りを持たせ, 他の民族の文化を理解し, 多文化の多様性を尊重できるようにすることである, と述べる。また, そういった目的とは別に民間の遊び

を導入することのメリットとして、民間遊びが、自発性、面白さ、民族性、その内容、空間的条件、道具の原料などにおける単純さなどから、幼稚園における教育課程において、良心、品格、多文化社会に対する準備などを自然に子供に与え、自文化に対する誇りと、多民族の文化に対する理解を醸成する、とする（133 頁）。このように、民間遊びが、子どもに楽しみながら様々なものを学ばせることができることが分かる。そして、特にベトナムにおいては、多民族共生という課題を抱え、民間遊びを通した教育に、自他の文化に対する理解と、尊重する態度を養うという狙いを持たせているところが特徴と言える。次に挙げるのは、*rồng rắn lên mây*「龍蛇が雲まで昇る」という京族（ベト族とも言い、ベトナムにおける大多数を占める民族）の民間遊びであるが、これと似たような遊びをタイ(Thai)族、タイー・ヌン(Tày-Nùng)族なども持っており、*Lường Thị Định* (2017)では、これを教育に取り入れることによって、お互いの民族の文化を理解し尊重することにつながると主張されている（134 頁）。

Người đóng vai thầy thuốc trả lời:

医者役の人が答える

- Thấy thuốc đi chơi ! (hay đi chợ, đi câu cá , đi vắng nhà... tùy ý mà chế ra). Đoàn người lại đi và hát tiếp cho đến khi thầy thuốc trả lời:

—私は遊びに行くのだ(あるいは市場に、魚釣りに、出かけるのだ、など自由に作る)！龍の役をする人は医者が答えるまで歩き回って歌い続ける

- Có !

—はい！

Và bắt đầu đối thoại như sau : Thầy thuốc hỏi:

ここで会話を始める：医者が尋ねる

- Rồng rắn đi đâu?

—龍蛇はどこへ行く？

Người đứng làm đầu của rồng rắn trả lời:

頭の人が答える

- Rồng rắn đi lấy thuốc để chữa bệnh cho con.

—私は子どもの病気を治すため医者の方へ行く

- Con lên mấy ?

—お子さんはおいくつ？

- Con lên một

—一歳です

- Thuốc chẳng hay

—薬は良くない

- Con lên hai.

—二歳です

- Thuốc chẳng hay.

—薬は良くない

.....

Cứ thế cho đến khi:

ずっと続けて

- Con lên mười.

—子どもは十歳です

- Thuốc hay vậy.

ーじゃあ、薬を飲んでも大丈夫

文化・スポーツ・観光省、観光総局ホームページより

以上のように、童謡や民間遊びの保育、幼児教育への導入は、その歌詞の内容から家族関係や初歩の数の概念を学ばせたり、伝統的な民族のリズムに親しんだりといった基本的な効果に加えて、日本や韓国でも重視されている愛国心、郷土愛を養うということも狙いとして挙げられており、更に少数民族の幼児が多い地域などでは特に、それぞれの民族の相互理解といった多民族国家ベトナムにとって重要な教育的テーマを学ぶ一つの手段ともなっている。

## 5. 結論

近年の急激な社会変化に伴ってベトナムでは教育界全体が改革の必要性を痛感してきたが、そこでは、「子どもを中心とした」教育ということがキーワードとなり、特に幼児教育の分野では遊びを通じた教育の導入によってそれを実現しようという考えの下研究と実践がなされてきた。そのような考え方、そしてベトナムが抱えている現場でまだ実践が十分でないという課題は日本にも共通するものである。

ベトナムにおける遊びを通じた教育によって期待されている教育的効果を具体的に見てみると、グローバル化に対応した人材、特に臨機応変な問題解決能力とコミュニケーション能力を育てるということを特に強く意識しているように思われる。また、愛国心や郷土愛の涵養、民族的、伝統的な文化の保存という目標は日本の教育のこれからの課題とも共通しているが、一方で、他民族共生という大きな課題を抱え、異文化共生ということが幼児教育の段階で意識されているというベトナム独自の現状も見られた。

本稿は、ベトナムにおける遊びを通じた教育について先行研究の紹介から若干の考察を加えるにとどまったが、今後テーマをさらに絞って現地調査を行い、考察を深めていきたいと考えている。

## 文献

- 1) 阿部茂樹, 田井志保里. (2007) 「ベトナム社会主義共和国における情報教育」『金沢大学教育学部教育工学研究・実践研究』第31号. 75-81
- 2) 石村雅夫・Tran Thi Ngoc. (2009) 「2005年ベトナム教育法―翻訳と解説―」『鳴門教育大学国際教育協力研究』第4号. 71-89
- 3) 岩崎洋子他. (2008) 『保育と幼児期の運動あそび』萌文書林
- 4) 嶋尾稔. (2008) 「ベトナムの伝統的私塾に関する研究のための予備的報告」『東アジア文化交渉研究 別冊』53-66

- 5) 筒井由紀乃. (2012) 「ベトナムの就学前教育にみる社会変化」『アジア学科年報』6, 160-163
- 6) 戸石泰一. (1970) 「ベトナムの教育」『文化評論』110, 112-123, 新日本出版社
- 7) 広木克行. (1971) 「民族の独立と教育の創造—ベトナムにおける抗仏戦争期の教育—」『教育』21(14), 88-99
- 8) 向井啓二. (2006) 「ベトナム教育史素描 (Ⅰ)」『種智院大学研究紀要』7, 38-55
- 9) 向井啓二. (2007) 「ベトナム教育史素描 (Ⅱ)」『種智院大学研究紀要』8, 40-59
- 10) 村上呂里. (2015) 『教育格差をこえる日本・ベトナム共同研究 「教え込み」教育から「子ども中心主義」の学びへ』明石書店
- 11) 山本華子, 今泉明子. (2018) 「幼児教育における「わらべうた」と「伝統的な遊び」の導入に関する一考察～新旧幼稚園教育要領と日韓音楽教育の比較より～」『小田原短期大学研究紀要』第48号. 9-18
- 12) 李霞. (2018) 「幼児指導における「遊びを通した学び」の実現についての一考察—「学びの共同体」理論に着目して—」『滋賀短期大学研究紀要』第43号. 103-116
- 13) 『平成29年告示, 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社 2017年6月
- 14) Đoàn, Thị Thao. 2017. Phát triển kỹ năng xã hội cho trẻ khuyết tật trí tuệ tuổi mầm non thông qua trò chơi dân gian (「民間の遊びを通した障害を持つ幼児に対するソーシャルスキルの涵養」). *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』). 11月特別号. 69-71
- 15) Dương, Tố Nga. 2015. Vai trò của âm nhạc trong việc giáo dục đạo đức cho trẻ (『幼児の道德教育に対する音楽の役割』). *Tạp chí Giáo dục* (『教育』). 4月特別号. 28-29
- 16) Lê, Thị Luận. 2015. Một số yêu cầu đối với giáo dục mầm non khi thực hiện chương trình giáo dục mầm non theo quan điểm lấy trẻ làm trung tâm (「子どもを中心とした観点による幼児教育課程の実践において幼児教育に必要なこと」), *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』). 7月特別号. 90, 91, 95
- 17) Lương, Thị Định. 2017. Trò chơi dân gian trong giáo dục đa văn hóa ở trường mầm non có nhiều học sinh dân tộc (「少数民族の生徒を多く持つ幼稚園での多文化教育における民間遊び」) *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』), 12月特別号. 133-135
- 18) Nguyễn, Tuấn Vinh. eds. 2018. Tổ chức hoạt động giáo dục lấy trẻ làm trung tâm ở trường mầm non thông qua dạy học theo dự án (「指導計画による学習指導を通した幼稚園における子どもを中心とする教育活動の実行」). *Tạp chí Giáo dục* (『教育』). 4月第2号. 17-20
- 19) Nguyễn, Thị Hòa. 2017a. *Giáo trình giáo dục học mầm non* (『幼児教育教程』), Nxb Đại học sư phạm
- 20) Nguyễn, Thị Hòa. 2017b. Dạy trẻ mẫu giáo học bằng chơi (「遊びによって幼児を育てる」) *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 2017年12月特別号. 24-27
- 21) Nguyễn, Thị Huệ. 2015. Tổ chức trò chơi đóng vai theo chủ đề nhằm giáo dục hành vi giao tiếp có văn hóa cho trẻ mẫu giáo ở trường mầm non (「幼稚園児に対する適切な対人コミュニケーション教育のためのごっこ遊び指導」) *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 12月第1号. 22-25
- 22) Trần, Thị Hằng. 2017. Tổ chức giờ học thể dục cho trẻ mầm non theo hướng “Lấy trẻ làm trung tâm (「子どもを中心とする」教育法に沿った幼児への体育クラスの編成」). *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 12月特別号. 30-31, 35

23) Trần, Thị Hiền. 2016. Xây dựng văn hóa nhà trường mầm non trong bối cảnh hiện nay (「現代における幼児学校文化の建設」), *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 12 月特別号

24) Trương, Thị Thùy Anh. 2017. Vai trò của đồng dao với việc phát triển nhận thức cho trẻ ở lứa tuổi mầm non (「幼児期における認知の発達に対する童謡の役割」), *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 4 月第 2 号, 19-21

25) Vũ, Thị Nhâm. 2015. Một số biện pháp tổ chức trò chơi đóng vai theo chủ đề để phát triển kỹ năng hợp tác cho trẻ mẫu giáo 5-6 tuổi (『5-6 歳児に対する協調性を養うためのごっこ遊びの実施方法』), *Tạp Chí Giáo Dục* (『教育』) 4 月 1 号, 29-30

26) 文化・スポーツ・観光省, 観光総局ホームページ

<http://www.vietnamtourism.com/index.php/about/items/2293>

閲覧日 10/10/18